

# 学校だより・あすなろ

校長 田崎俊一郎



## 北っ子の心を見つめる教育週間

6月8日(土)から6月14日(金)は、「北っ子の心を見つめる教育週間」です。これは、平成16年から長崎県全体で取り組んでいる「長崎っ子の心

を見つめる教育週間」の取組を本校ができることを中心として具体化したものとなります。毎年この6月は、各学校が学校の実態に合わせた取組を進めます。北小では10日(月)に子どもたちに、いのちの関する講話を行いました。次のような内容です。

いのちを大切にしなければならないのは当然ですが、そもそもいのちとは何でしょう？また、いのちを大切にすることはどういうことなのでしょう。一人一人考え方がちがうでしょうが、今日は考えるヒントとして、一冊の絵本を紹介します。この絵本の著者は、日野原重明さんです。日野原重明さんは、105歳でお亡くなりましたが、100歳を越えてからも多くの患者さんを診られたお医者さんです。その日野原先生が、小学校を訪ね、「いのち」の授業をされた時のことが、分かりやすく絵本にしています。その絵本の中で、日野原先生は、子どもたちに問いかけられます。「いのちってなんでしょう？そう生きているということですね。では生きているとは、どういうことだと思いますか？」子どもたちのいろいろな答えを聞いた後、先生はこう話をされます。「いのちは、きみたちのもっている時間だといえますよ。」「心臓は大切ですが、いのちそのものではありません。いのちを動かすモーターです。心臓が止まったら、人間は死んでしまい、つかえる時間もなくなるのです。いまきみたちは、どのようにでもつかえる自分の時間をもっている。時間をつかうことは、いのちをつかうことです。」日野原先生は、漠然と生きることが大切ではなく、自分らしく生きること、その生き方こそが大切だと言われています。

子どもたちの身の周りには、いのちを大切にしている人・いのちを大切にしている行動がたくさんあります。そのことを可視化し、示してあげることが、子どもたちに「いのちの大切にすること」をより具体的に理解させることにつながると考えます。

## 水泳の学習！頑張っています！

6月4日(火)から、水泳の学習が始まっています。学年ごとに、シーライフひらどへ出かけ、一生懸命に泳いでいます。

シーライフの指導員の方、ボランティアの方2名の方にも加わっていただき、より専門的に指導をしていただいています。そのおかげで、子どもたちも、水に慣れ、浮く・泳ぐが上手にできるようになりました。水泳の基本は、まず、水に浮くことですが、これがなかなかうまくできません。恐怖心から、体に力が入ってしまうと上手に浮くことができなくなります。また、ジタバタと手足を動かすと、上手に泳ぐことはできません。まずは、水に慣れ、しっかりと浮くことや「けのび」の姿勢が保てるように練習していきます。